（３）　ト　マ　ト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani* *Pythium vexans*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床土を乾かす。 4.発病株は早急に圃場外へ持ち出し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●定植前（土壌消毒） 消毒方法はⅢ－１４．土壌病害虫の防除の項参照。 ●播種時 1.バシタック水和剤７５、モンカット水和剤、ガスタード微粒剤、バスアミド微粒剤、リゾレックス水和剤・粉剤、ダコニール1000はリゾクトニア属菌に登録がある。	土壌消毒	－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
		播種前 （種子粉衣）	7	バシタック水和剤７５
			7	モンカット水和剤
			M4	オーソサイド水和剤８０
		播種前	14	リゾレックス粉剤
		播種時～ 子葉展開時	7	バシタック水和剤７５
			7	モンカット水和剤
		播種時	14	リゾレックス水和剤
		播種時 または活着後	M5	ダコニール１０００
		播種後から ２～３葉期まで	M4	オーソサイド水和剤８０
2 葉かび病 *Passalora fulva*	1.換気を図り、過湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.耐病性品種を栽培する。 4.排水を良好にする。 5.発病した茎葉は処分する。 6.被害植物の付いた資材はよく消毒する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ハウス栽培では多発する。 2.発病後の防除は効果があがらず、また、潜伏期間が15～20日もあるので、予防散布に努める。 3.サンヨールはアブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。 4.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、軟腐病にも登録がある。	定植直後から	1	トップジンＭ水和剤
			1	トップジンＭゾル
			1	ベンレート水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			3	トリフミン水和剤
			3	トリフミン乳剤
			3	スコア顆粒水和剤
			7	ネクスターフロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			19	ポリオキシンＡＬ水溶剤
			19	ポリオキシンＡＬ乳剤
			－	サンヨール
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ジマンダイセンフロアブル
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M4	オーソサイド水和剤８０
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			M1	クプロシール ド
			BM2	（生）エコショット
			BM2	（生）アグロケア水和剤
			BM2	（生）タフパール
			10･1	（混）ゲッター水和剤
			4･M5	（混）フォリオゴールド
			7･M5	（混）ベジセイバー
			27･11	(混)ホライズンドライフロアブル
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			－･19	（混）デュアルサイド水和剤
			21･M5	（混）ドーシャスフロアブル
			24･M1	（混）カスミンボルドー
			24･M1	（混）カッパーシン水和剤
			40･M5	（混）プロポーズ顆粒水和剤
			27･M5	（混）ブリザード水和剤
			M2･M1	（混）イデクリーン水和剤
			M2･M1	（混）園芸ボルドー
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･11	（混）ファンベル顆粒水和剤
			M7･17	（混）ダイマジン
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
			NC･M1	（混）ジーファイン水和剤
		ハウス内防除 （くん煙）	3	トリフミンジェット

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
3 すすかび病 *Pseudocercospora fuligena*	1.換気を図り、過湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.排水を良好にする。 4.発病した茎葉は処分する。 5.被害植物の付いた資材はよく消毒する。	定植直後から	3	トリフミン乳剤
			3	トリフミン水和剤
			3	スコア顆粒水和剤
			7	アフェットフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			M1	Ｚボルドー
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクートフロアブル
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			7･M5	(混)ベジセイバー
			27･M5	(混)ブリザード水和剤
			M2･M1	(混)イデクリーン水和剤
			M2･M1	(混)園芸ボルドー
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
			NC･M1	(混)ジーファイン水和剤
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.換気を図り、多湿を防ぐ。 2.密植を避ける。 3.病果、病葉は早く摘除して埋設する。 4.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 5.排水を良好にする。 6.被害植物の付いた資材はよく消毒する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。 2.ゲッター水和剤はベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌に効果がある。 3.ファンベル顆粒水和剤は施設内が高温多湿の場合は、薬害のおそれがあるので、散布後十分換気を行う。	発病前から	1	トップジンＭ水和剤
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			2	ロブラール５００アクア
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	パレード２０フロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	カナメフロアブル
			9	フルピカフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			12	セイビアーフロアブル２０
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			19	ポリオキシンＡＬ水溶剤
			52	ミギワ１０フロアブル
			52	アイーナ２０フロアブル
			－	サンヨール
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			BM2	(生)エコショット
			BM2	(生)アグロケア水和剤
			BM2	(生)バチスター水和剤
			BM2	(生)タフパール
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			7･9	(混)ピカットフロアブル
			7･M5	(混)ベジセイバー
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			M7･11	(混)ファンベル顆粒水和剤
			17･12	(混)ジャストミート顆粒水和剤
			M7･17	(混)ダイマジン
			M7･50	(混)ラミック顆粒水和剤
		ハウス内防除(くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
			2	スミレックスくん煙顆粒
		ハウス内防除(常温煙霧)	1	トップジンＭ水和剤
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
		ハウス内防除(ダクト内投入)	BM2	(生)バチスター水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
5 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.換気を図り、多湿を防ぐ。 2.病果、病茎は早く摘除し、圃場外へ持ち出し、処分する。 3.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ゲッターはベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌に効果がある。 2.ファンベル顆粒水和剤は施設内が高温多湿の場合は、薬害のおそれがあるので、散布後十分換気を行う。	発病前から	1	トップジンM水和剤
			1	トップジンMゾル
			1	ベンレート水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	スクレアフロアブル
			52	ミギワ10フロアブル
			52	アイーナ20フロアブル
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			M7･11	(混)ファンベル顆粒水和剤
		ハウス内防除(くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
6 うどんこ病 *Leveillula taurica* *Pseudoidium neolycopersici* *Oidium* sp.	1.窒素肥料の過多は本病の発病を助長する。 2.昼夜の温度差が大きくなると発病が多くなる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。 2.ハーモメイト水溶剤は灰色かび病にも登録がある。 3.カリグリーンは葉かび病と灰色かび病にも登録がある。 4.ファンベル顆粒水和剤は施設内が高温多湿の場合は、薬害のおそれがあるので、散布後十分換気を行う。	発生初期	3	トリフミン乳剤
			3	トリフミン水和剤
			7	アフェットフロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	パレード20フロアブル
			7	カナメフロアブル
			M7	ベルクートフロアブル
			BM2	(生)バチスター水和剤
			NC	ハーモメイト水溶剤
			NC	カリグリーン
			―	サンヨール
			―	エコピタ液剤
			1･10	(混)ニマイバー水和剤
			7･9	(混)ピカットフロアブル
			7･M5	(混)ベジセイバー
			U6･3	(混)パンチョTF顆粒水和剤
			U13･9	(混)ショウチノスケフロアブル
			M2･M1	(混)イデクリーン水和剤
			M2･M1	(混)園芸ボルドー
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･11	(混)ファンベル顆粒水和剤
			M7･50	(混)ラミック顆粒水和剤
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
		ハウス内防除(くん煙)	U6･3	(混)パンチョTFジェット
7 疫病 *Phytophthora infestans*	1.高うねにして排水を良好にする。 2.敷わらなどをして雨のはねかえりを防ぐ。 3.空気湿度96%以下になると、発病が抑制される。 4.病果、病茎は早く摘除し、圃場外へ持ち出し処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.抑制栽培で発病が多いので、雨の多いときは十分防除する。 2.苗床で発生することがあるので、数回予防的に散布する。	発病前から	21	ランマンフロアブル
			21	ライメイフロアブル
			40	レーバスフロアブル
			40	フェスティバル水和剤
			M1	サンボルドー
			M1	ドイツボルドーA
			M1	Zボルドー
			M1	コサイド3000
			M1	ボルドー
			M1	ムッシュボルドーDF
			M1	クプロシールド
			M1	ICボルドー66D
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ジマンダイセンフロアブル
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M4	オーソサイド水和剤80
			M5	ダコニール1000
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M3･4	(混)リドミルゴールドMZ
			4･M5	(混)フォリオゴールド
			7･M5	(混)ベジセイバー

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 疫病のつづき			27・11	(混)ホライズンドライフロアブル
			11・M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			21・M5	(混)ドーシャスフロアブル
			21・27	(混)ダイナモ顆粒水和剤
			27・40	(混)ベトファイター顆粒水和剤
			27・M3	(混)カーゼートPZ水和剤
			45・40	(混)ザンプロDMフロアブル
			49・40	(混)オロンディスウルトラSC
			40・M1	(混)フェスティバルC水和剤
			40・M3	(混)ベネセット水和剤
			40・M3	(混)カンパネラ水和剤
			40・M5	(混)プロポーズ顆粒水和剤
			M2・M1	(混)イデクリーン水和剤
			21・49	(混)ゾーベックエンテクタSE
			M2・M1	(混)園芸ボルドー
			NC・M1	(混)ジーファイン水和剤
8 輪紋病 *Alternaria solani*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好に守る。 3.肥切れさせない。 4.被害茎葉は畑に残さず処分する。	発病初期から	2	ロブラール水和剤
			7	ネクスターフロアブル
			M1	Zボルドー
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M5	ダコニール1000
9 斑点病 *Stemphylium lycopersici* *S.solani*	1.排水を良好にする。 2.換気、通風を良好にする。 3.密植を避ける。 4.肥切れさせない。 5.被害茎葉は畑に残さず処分する。	発病初期から	2	ロブラール水和剤
			7	カナメフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			11	スクレアフロアブル
10 萎凋病 *Fusarium oxysporum* f.sp.*lycopersici*	1.抵抗性品種（または台木）を利用する。 2.無病用土を利用する。 3.罹病株は早期に除去する。 4.作物残さは圃場外へ持ち出し、処分する。 5.未熟堆肥の施用は病原菌の増殖を助けることになるので、完熟堆肥を施用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種または植付前（土壌消毒） 1.床土及び本田を土壌消毒する。消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.根腐萎凋病は萎凋病と同一の病原菌である。 3.耐病性品種でも線虫の被害を受けると発病する。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－	キルパー
			－・－	(混)ソイリーン
			－・－	(混)ダブルストッパー
		播種前（種子浸漬）	M3・1	(混)ホーマイ水和剤
		播種前（種子粉衣又は種子浸漬）	M3・1	(混)ベンレートT水和剤20
11 青枯病 *Ralstonia solanacearum*	1.接木を行う。 2.５～６年の輪作を行う。 3.有機質肥料を施用する。 4.敷わらをして地温の上昇を防ぐ。 5.発病株は見つけしだい除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.床土及び本田を土壌消毒する。消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.多発した場合は接木と土壌消毒を併用する。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	ガスタード微粒剤
			－	バスアミド微粒剤

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
12 かいよう病 *Clavibacter michiganensis* subsp. *michiganensis*	1. ４か年間以上輪作をする。 2. 発病株は見つけしだい抜き取り、処分する。 3. 芽かぎ、摘心は晴天時に行う。 4. 窒素質肥料の過用を避け、排水を良好にする。 5. 種子消毒として温湯（54℃）に20分間浸漬する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. カスミンボルドー、カッパーシン水和剤はアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はしない。 2. カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、軟腐病にも登録がある。	本圃	24･M1 24･M1	（混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
13 斑点細菌病 *Xanthomonas vesicatoria*	1. 発病した茎葉は集めて処分する。 2. 排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. カスミンボルドー、カッパーシン水和剤はアルカリ性薬剤、チオファネートメチル剤との混用はしない。 2. カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は軟腐病にも登録がある。	発生初期	M1 24･M1 24･M1	Ｚボルドー （混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤
14 尻腐病 （石灰欠乏症）	1. 土の乾きすぎ、湿りすぎを防ぐ。 2. 窒素質肥料を施しすぎないようにする。 3. 石灰を十分に施用しておく。 4. 塩化石灰（塩化カルシウム）の0.2～0.5%液またはスイカル500～1,000倍を各花房の開花初期ごとに花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。 5. アグリメイトを各花房の開花初期ごとに花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。			
15 アブラムシ類 （モザイク病 ＴＭＶ ＣＭＶ ＰＶＸ ＰＶＹ）	1. 発病株の芽かぎ、その他の手入れは最後にする。 2. 抑制栽培では防虫ネット（１㎜目合以下）被覆による育苗を行う。 3. 耐病性品種を栽培する。 4. ＣＭＶ、ＰＶＹは、アブラムシ類で伝染するのでシルバーマルチをする。 5. ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 6. アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	鉢上げ時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 4A･28	ベリマークＳＣ ヨーバルフロアブル （混）アベイル粒剤
		育苗期後半又は定植時	4A	ベストガード粒剤
		定植時	1B 1B 4A 4A 4A 4A 4A	オルトラン粒剤 ジェイエース粒剤 アドマイヤー１粒剤 モスピラン粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C 9B 9B 23 28 29 － －	アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 ロディー乳剤 アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 トランスフォームフロアブル チェス顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 モベントフロアブル ベネビアＯＤ ウララＤＦ エコピタ液剤 サフオイル乳剤

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
16 ネキリムシ類	1.植付け予定圃場では除草に努める。 2.育苗床は、雑草の繁茂していないところに設ける。	定植時	1B	カルホス粉剤
		生育初期	3A	ガードベイトA
17 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。 3.本虫対象にアタブロンで防除を実施しているところでは、コナジラミ類の発生が少ない。	育苗期	15 28･4A	カウンター乳剤 (混)ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 15 15 15 18 22A 22A 22B 28 28 UN	ディアナSC バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 フローバックDF エコマスターBT サブリナフロアブル ノーモルト乳剤 マッチ乳剤 アタブロン乳剤 ファルコンフロアブル トルネードエースDF ファイントリムDF アクセルフロアブル ヨーバルフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレオフロアブル
18 シロイチモジヨトウ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。	発生初期	11A 11A UN	ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 プレオフロアブル
19 オオタバコガ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。 3.スピノエース顆粒水和剤はアザミウマ類にも登録がある。 4.本虫対象にスピノエースで防除を実施しているところでは、コナジラミ類の発生が少ない。 5.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 6.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。	育苗期	15	カウンター乳剤
		若齢幼虫期	3A 6 5 5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 15 15 22A 22A 22B 28 28 28 28 UN －･5 6･15	アーデント水和剤 アファーム乳剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC トアローフロアブルCT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF エコマスターBT チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル ジャックポット顆粒水和剤 コテツフロアブル マッチ乳剤 カスケード乳剤 アタブロン乳剤 トルネードエースDF ファイントリムDF アクセルフロアブル プレバソンフロアブル5 フェニックス顆粒水和剤 ヨーバルフロアブル ベネビアOD プレオフロアブル (混)ダブルシューターSE (混)アファームエクセラ顆粒水和剤
20 トマトキバガ	1.圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。 2.被害葉や被害果実は圃場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.防除した後も常に幼虫の発生に注意する。	発生初期	13 22A 28 11A 11A 11A －･5	コテツフロアブル トルネードエースDF ベネビアOD サブリナフロアブル デルフィン顆粒水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 (混)ダブルシューターSE

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
21 コナジラミ類 22 オンシツコナジラミ 23 タバココナジラミ類 （シルバーリーフコナジラミを含む） 〔トマト黄化葉巻病 ＴＹＬＣＶ〕	1.施設栽培では苗による持込みに注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（0.4mm目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋没するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.夏期には、栽培終了後ハウスを密閉して高温に保ち、熱殺する。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 7.シルバーリーフコナジラミが高密度で寄生すると、着色異常果が発生するので注意する。 **<薬剤使用の特記事項>** 1.本虫対象にアルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤で防除を実施しているところでは、アブラムシ類の発生が少ない。 3.オレート液剤は本葉６～７枚期までの散布は、薬害のおそれがある。 4.アディオン乳剤、アグロスリン水和剤、アグロスリン乳剤、ロディー乳剤、テルスターフロアブルはオンシツコナジラミの登録である。 5.アプロード水和剤はオンシツコナジラミ幼虫とタバココナジラミ類幼虫（シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む）の登録である。 6.ファインセーブ、アベンジャーフロアブルはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む）での登録である。 7.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 8.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあけること。 **【トマト黄化葉巻病対策】** 1.発病株は抜き取り、ビニール袋等に入れ、枯れるまで密封する。 2.圃場周辺に野良ばえのトマトやミニトマトを生やさない。 3.葉かぎした葉はビニール袋等に入れて密封し、蛹が成虫にならないようにする。 4.購入苗を定植するまでの間、野外に放置せず、防虫ネット（0.4mm目合以下）で覆う。 5.シルバーリーフコナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（ＴＹＬＣＶ）を伝搬するので注意する。	鉢上げ時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		鉢上げ時又は定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		育苗期	15	カウンター乳剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28	ヨーバルフロアブル
			4A･28	（混）アベイル粒剤
		育苗期又は定植時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半又は定植時	4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
		定植時	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	コロマイト乳剤
			6	アファーム乳剤
			6	アグリメック
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			16	アプローチ水和剤
			9B	チェス顆粒水和剤
			9B	コルト顆粒水和剤
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			29	ウララＤＦ
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
			UN	モレスタン水和剤
			－	サンクリスタル乳剤
			－	オレート液剤
			－	サフオイル乳剤
			－	エコピタ液剤
			UNF	（生）ボタニガード水和剤
			－･5	（混）ダブルシューターＳＥ
			21A･16	(混)アプロードエースフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	4A	モスピランジェット
		ハウス内防除(ダクト内投入)	UNF	（生）ボタニガード水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
24 アザミウマ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.被害植物や雑草は除去後、土中に埋設するか、ビニール等で中に埋設するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 4.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 5.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 6.ミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）を伝搬するので注意する。 7.ベネビアＯＤはアゾキシストロビンを含む農薬と混用すると薬害を生じるおそれがあるので混用しない。 8.アゾキシストロビンを含む農薬を散布後ベネビアＯＤを散布する場合には、薬害を回避するため散布後２週間以上間隔をあける。 9.ファインセーブフロアブルはヒラズハナアザミウマに対しては効果が劣るので注意する。	鉢上げ時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		発生初期	4A	ベストガード水溶剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			5	ディアナＳＣ
			6	アグリメック
			15	マッチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
			－･5	（混）ダブルシューターＳＥ
25 ミカンキイロアザミウマ		発生初期	3A	アーデント水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	カスケード乳剤
			29	ウララＤＦ
26 ハモグリバエ類 27 マメハモグリバエ 28 トマトハモグリバエ	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋設するか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 8.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムに圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アグリメックは、トマトハモグリバエに登録がある。	鉢上げ時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマークＳＣ
			4A･28	（混）アベイル粒剤
		定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		発生初期	4A	ダントツ水溶剤
			5	ディアナＳＣ
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			6	コロマイト乳剤
			6	アグリメック
			15	カスケード乳剤
			17	トリガード液剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			－･5	（混）ダブルシューターＳＥ
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
29 ハダニ類	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 3.作物残さを放置すれば、ハダニ類の増殖源となるので、早めに処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.サンヨールはアブラムシ類、コナジラミ類にも登録がある。	発生初期	－	サンヨール
			－	サフオイル乳剤
			－･5	（混）ダブルシューターＳＥ

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

トマト

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
30 トマトサビダニ	1.圃場内や周辺雑草は作付け前に除草する。 2.収穫残さは速やかに処分する。 3.管理作業時に衣服に付着して広がることがあるので、被害株の管理は最後に行う。	発生初期	4C	トランスフォームフロアブル
			6	アファーム乳剤
			6	コロマイト乳剤
			6	アグリメック
			15	マッチ乳剤
			13	コテツフロアブル
			23	モベントフロアブル
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
			UN	イオウフロアブル
			UN	モレスタン水和剤
			－	サンクリスタル乳剤
			－	サフオイル乳剤
			21A･16	(混)アプロードエースフロアブル
			UN･－	(混)園芸ボルドー
			UN･－	(混)クリーンワイドフロアブル
			－･－	(混)デュアルサイド水和剤
31 カメムシ類	1.ハウス開口部を防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆すれば、飛来を軽減できる	発生初期	1B	マラソン粉剤3
			4A	スタークル顆粒水溶剤
32 センチュウ類	1.抵抗性品種（または台木）を利用する。 2.水田への転換可能なところでは、1～2年畑を水田化する。 3.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおそれのない用土を使用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●植付前（土壌消毒） 1.消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.クロピクテープ、キルパー、バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤はネコブセンチュウに登録がある。 3.ソイリーン、ダブルストッパーはネコブセンチュウとネグサレセンチュウに登録がある。	植付前（土壌消毒）	8B	クロールピクリン
			8B	ドロクロール
			8B	クロルピクリン錠剤
			8B	クロピクテープ
			8F	バスアミド微粒剤
			8F	ガスタード微粒剤
			8F	キルパー
			8F･8A	(混)ディ・トラペックス油剤
			8F･8A	(混)ソイリーン
			8F･8A	(混)ダブルストッパー
		定植前	1A	バイデートL粒剤
			1B	ネマトリンエース粒剤
			1B	ネマキック粒剤
			－(生)	(生)パストリア水和剤
		発生初期	1B	ガードホープ液剤
	●定植前 4.バイデートL粒剤はネコブセンチュウとネグサレセンチュウに登録がある。 5.ネマトリンエース粒剤、ネマキック粒剤、パストリア水和剤はネコブセンチュウに登録がある。 ●発生初期 1.ガードホープ液剤はネコブセンチュウに登録がある。			